

# 森林資源を活用した工芸品と資源の現状に関する調査

山形県立農林大学校 林業経営学科 相澤 蓮

## 1 はじめに

森林は、古くから地域文化の形成に大きな影響を与えており、中でも東北地方は多くの森林資源を生活の中で活用している地域です。その象徴が工芸品であり、東北地方では農作業ができない冬期間の副業として営まれていたことから他の地方よりもその歴史が深く、将来にわたって森林資源を使った工芸品の技術を継承していく必要があります。しかし、近年、広葉樹資源の利活用が低下し、一部の工芸品製作者からは、原材料の安定確保が大きな課題となっていることが報告されています。

そこで本研究では、地域の森林資源を活用した工芸品の把握と、原材料となる資源の現状と課題について調査し、原材料供給における地域の林業事業者等との連携の可能性について検討することとしました。

## 2 取組・研究方法

### 【調査1】森林資源を使った工芸品の現況調査

#### (1) 調査方法

調査は、県市町村ホームページや山形県木工所一覧、各工房のウェブサイト等を参考に実施し、調査対象は山形県と宮城県の2県としました。

#### (2) 調査項目

- ① 工芸品の製作者と所在地
- ② 製作している工芸品の種類（皿、テーブル等の家具、こけしなど）
- ③ 使用している原材料（樹種、使用部位など）

### 【調査2】工芸品の原材料となる森林資源の現状と課題の把握

#### (1) アンケート調査

##### 調査方法

調査1の結果をもとに、工芸品の種類、工房所在地等を基準にアンケート調査先を選定し、調査を実施しました。

#### (2) 聞き取り調査

##### ① 調査方法

アンケート調査で原材料となる森林資源の情報及び原材料調達に関する林業事業者との連携について希望した製作者（表1）に、対面または電話にて聞き取り調査を実施しました。

##### ② 調査内容

- ア 使用している原材料（樹種、使用部位）

- イ 原材料の調達先と方法：地域、事業体、現場等で直接受取または工房搬入
- ウ 原材料に求める条件：直径、長さ、曲がり等の欠点の許容範囲等
- エ 材料の提供を受ける場合の条件
- オ 工房の設備等に関する情報：製材機械の有無、乾燥スペース等
- カ 材料調達における現状での課題点
- キ 今後の課題
- ク 連携を希望する事業体等と調達を希望する地理的範囲
- ケ 連携を希望する事業体等への工房に関する情報提供の可否

表1 聞き取り調査先（全7件）

調査先	工房所在地	製作する工芸品	調査形式
工房A	（山形県村山市）	木のおもちゃ（積み木、パズルなど）	対面
工房B	（山形県大石田町）	イス、テーブル、棚など	電話
工房C	（山形県米沢市）	お椀、オーバル皿、プレートなど	対面
工房D	（山形県天童市）	将棋飾り駒、トレイ、時計など	対面
工房E	（宮城県大崎市鳴子）	伝統工芸品（こけし）	対面
工房F	（宮城県仙台市作並）	伝統工芸品（こけし）	電話
工房G	（宮城県仙台市秋保）	伝統工芸品（こけし）、お椀など	対面

### 【調査3】 原材料調達における製作者と林業事業体等との連携の検討

調査2で原材料調達に関する林業事業体等との連携の同意を得た工芸品製作者の情報を、各工房のある地域を管轄するかあるいは近隣にある林業事業体に提供し、連携の可能性を検討しました。提供した情報は、工房名、所在地、工芸品の種類、使用樹種、原材料の条件等です。情報の提供先は、宮城県内の1森林組合（宮城県仙台市）、山形県最上管内の森林組合と民間林業事業体それぞれ1団体の計3事業体です。

## 3 結果

### 【調査1】 森林資源を使った工芸品の現況調査

調査対象は、山形県内から100件、宮城県内からは伝統工芸品として指定されているこけし工房を含む15件を選定し、計115件としました。

### 【調査2】 工芸品の原材料となる森林資源の現状と課題の把握

#### （1）アンケート調査

アンケートを送付した115件のうち、58件から回答がありました。現在も工芸品を製作している製作者は46件で（図1）、そのうち、原材料調達等に関する林業事業体等との連携を希望する製作者は34件と74%を占めました（図2）。

製作している工芸品の内訳では家具が19件で31%、食器が14件で23%、伝統工芸品が13件で21%となりました(図3)。また、使用している樹種は、ケヤキ、カエデがともに20件の14%、スギ、サクラがともに15件で10%、ナラ、クリがともに10件で7%となり、外材は15件で全体の10%となりました。原材料の調達先を聞いたところ、複数の調達先を持っている工房もありますが、山形県内が37件と半数以上を占め、北海道・東北地方、関東以南、関東地方と続きました。

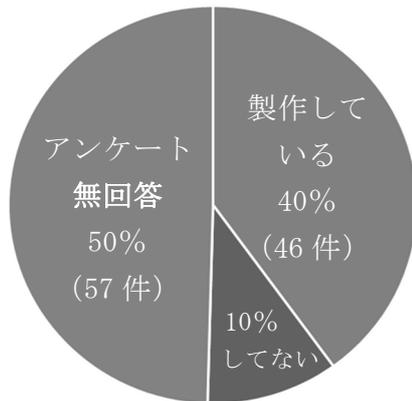


図1 アンケート調査の回答と製作の有無

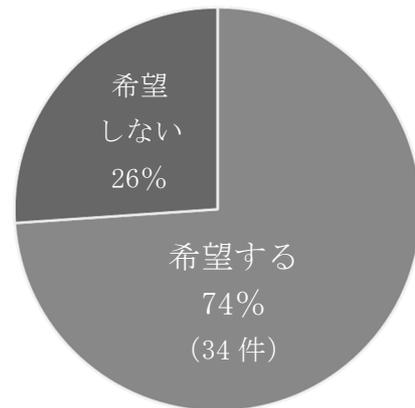


図2 林業事業体との連携希望の有無

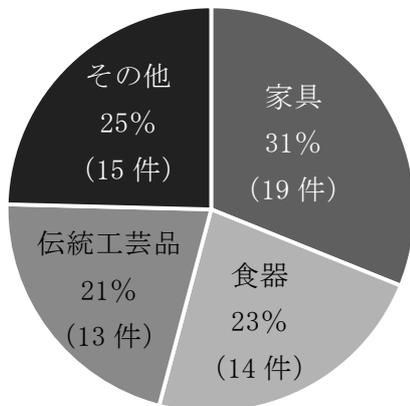


図3 製作している工芸品の種類

## (2) 聞き取り調査

アンケート調査で林業事業体との連携を希望すると回答した34件の製作者の中から、特に林業事業体との連携により安定供給の可能性が見込まれる樹種を使用している7件を選定し、聞き取り調査を行いました。その結果、原材料が手に入らない、価格が上がったなどの要因から、全ての製作者が今後も含めた原材料確保に課題を感じていると回答しました。原材料の購入先は、山形県最上管内製材所、木材共販所(山形県天童市)等

で、購入後の工房への搬入方法としては、現地まで取りに行くとは回答した製作者が3件、工房までの搬入を希望すると回答した製作者は4件でした。工房別の使用樹種では、イタヤカエデ、サクラといった用途の汎用性が高い樹種の使用件数が多い結果となりました。一方、原材料の樹種別、用途別の条件として、材長、幅、末口直径等の基準が示されたほか(表2)、冬季の伐採、伐採後の早期搬出などの希望がありました。現状の課題としては、需要側である工房と供給側である事業体のそれぞれの実情に対するお互いの認識不足が明らかとなり、伐採を行う川上の林業事業体や川中の製材工場等から工芸品として使用可能な広葉樹の樹種やサイズ、欠点の許容範囲、採材方法等について認識してもらおうと

もに、工房側からも現在の木材生産の実情を認識してもらうことの必要性が示されました。また、聞き取り調査を行った全ての工房から、原材料調達にあたって林業事業体等への情報提供の同意を得ました。

表2 原材料の樹種、用途別条件

樹種	用途、材長、幅	末口直径、厚さ	その他要件
イタヤカエデ	こけし 長さ 2m 以上	直径 6~30cm	曲がり無、芯無し
	家具 長さ 1.8~2.4m	厚さ 2.7~3.4cm	矢高 5cm 以下、含水率低
サクラ	こけし 長さ 1.8~2.1m	直径 6~18cm	直材無節
	挽板 長さ 1.5m 以上	直径 30cm 以上	
ケヤキ	家具 長さ 1.5m 以上 幅 1.8m 以下	厚さ 2.4~3cm	割れ、腐れなし
ブナ	食器 長さ 34cm まで	直径 30cm 以下	矢高 5cm 以下
	家具 長さ 1.8~2.4m	直径 30cm 以上	
ミズキ	こけし 長さ 1m 以上	直径 3~70cm 程度	矢高 5cm 以下、芯付き
ナラ	挽板 長さ 1.8~2.2m	直径 30cm 以上	冬季伐採物
クリ	家具 長さ 1.8~2.4m	厚さ 2.7~3.4cm	矢高 5cm 以下
	食器 幅 34cm 以下	厚さ 34cm 以下	
オニグルミ	挽板 長さ 1.8~2.2m	直径 30cm 以上	節、割れ無
エンジュ	こけし 長さ 1.6~2.1m	直径 6~18cm	矢高 5cm 以下、節無し

### 【調査3】原材料調達における製作者と林業事業体等との連携の検討

聞き取り調査で同意を得た製作者の情報を、3事業体に提供しました。最上管内の森林組合と民間林業事業体からは、定期的な材料提供はできないものの、素材生産現場で希望する材を伐採した場合は製作者へ連絡するとの回答を受けました。また、宮城県内の森林組合については、1月11日に仙台市秋保のこけし工房にて、3者による原材料調達の連携に関する意見交換と協議を実施しました。この森林組合では広葉樹の伐採も行っており、現在、材料を供給している松島町内のこけし工房と併せて、秋保こけし工房への原材料提供も可能との回答を得ました。これまで主としてバイオマス用チップ、パルプ材として搬出していた広葉樹を、その価値を生かした利用につなげたいとの思いから、今後、原材料として使用可能な広葉樹を伐採した場合は製作者へ連絡し、搬出を検討するとの回答がありました。こけし製作者からは、森林組合との協議ははじめてであり、宮城県内でもこけしの原材料となる広葉樹の伐採、搬出を行っていることや他のこけし工房へ材料提供の実績があることなど、これまで認識していなかった情報を数多く得ることができ、有意義な話し合いだったとの感想をいただきました。



図4 意見交換会実施状況  
(令和6年1月11日 宮城県仙台市)

#### 4 考察・結論

アンケート調査に回答した製作者の74%が原材料調達に関する連携を希望したことは、林業事業者等との連携を、今後、積極的に広めていく必要があることを示すものです。その背景として、聞き取り調査から明らかになった製作者と林業事業者の広葉樹資源の需要供給に対する認識の違いや、広葉樹資源を扱う業者の減少による原材料不足の深刻な現状がありました。

原材料供給に関する情報共有では、情報入手の機会や交流の場がこれまで無かったことから、考えや意見に食い違いが見られました。林業事業者等との連携協議では、工芸品製作者にとって初めて耳にする情報や意見が多く有益な情報を得る貴重な機会となったことから、情報共有の橋渡しは、本課題に取り組む際に最優先に行うべきものと考えます。

一方、原材料供給においては、樹種別のサイズ等の要件、伐採時期、材料の搬入方法などの課題も多く、工芸品製作者と林業事業者等との交流の中で連携に関する意識を深めていくことで、これらの課題が解決できると推測されます。また、連携を行うにあたっては、情報提供等の橋渡しや原材料調達の際に、地域おこし協力隊や行政からの協力も必要との意見が森林組合から示されたことから、行政にも情報を提供し共有していくことが重要だと考えます。

今後、原材料の安定供給を望む製作者と近隣の複数の事業者との原材料供給に関する連携が促進されれば、材料供給の分散化による安定供給が可能になり、これまで主としてバイオマスやパルプ用材として搬出されるかあるいは素材生産現場に放置されていた広葉樹資源が、わずかながらも材料の価値に見合った有効利用につながる可能性が期待されます。

私は、この4月から本調査で連携協議を実施した宮城県内の森林組合に就職することから、今後はこの調査で得た知見をもとに、素材生産者の立場から連携促進を図っていきたいと考えています。